

研究主題 「知的障害のある卒業生のより良い働き方と生活について考える」

I 団体の概要

平成 11・12 年度に文部科学省から東京都に「盲・ろう・養護学校就業促進に関する調査研究」の依頼があり、事務局を都立青鳥養護学校(現都立青鳥特別支援学校)に置き、調査研究を行った経緯から、主に知的障害のある生徒の就業促進や定着支援等について都内 28 校の高等部設置校進路指導担当教員が調査・研究を行っています。

II 研究目的

- ・知的障害特別支援学校高等部卒業生の進路先と定着状況を把握し、より良い進路指導を実践する。
- ・知的障害特別支援学校高等部在籍生徒や卒業生のより良い働き方と生活について学ぶ。

III 研究方法

- ・月1回程度の事務局会を行い、年間や次年度の研究内容を検討し、実施する。
- ・研修会(年間3回)や教職員研修センターとの連携研修(年間2回)を行い、先駆的事例や実践内容を知り、各校の進路指導に活かす。

IV 研究内容

- ・知的障害特別支援学校高等部卒業生の進路先と1年後と3年後の定着状況調査を行う。(毎年実施)
- ・研修会(年間3回)、教職員研修センターとの連携研修(年間2回)を実施する。

V 研究の成果と課題

- ・進路先調査では、高等部を設置する都立知的障害特別支援学校全 28 校からのアンケートを分析し、令和4年度高等部卒業生の 45.2%が企業就職し、令和3年度卒業生が1年経って 92%が働き続けていることが分かりました。また、平成 31 年度卒業生の3年後の調査を行うと、802 人の就職者のうち、89 人が退職していました。3年後の企業定着率は 88.9%でした。
- ・研修会では、東京労働局や就業・生活支援センターのセンター長、障害者雇用を行っている企業や企業に勤める障害当事者を招き、障害者の雇用状況や制度改革について、特別支援学校高等部卒業後の進路や定着支援の在り方などについて学びました。
- ・連携研修では、大学教授や働く障害者の生活を支えている支援の方、一人暮らしをしながら働いている障害当事者を招き、キャリア教育や就労・生活支援の状況などについて学びました。

VI 今後の活動予定

- ・知的障害特別支援学校高等部卒業生の進路先と定着状況についての調査を行います。
- ・令和6年2月8日に障害当事者を招き「企業で働き続けるために必要なこと」等について第3回研修を行います。
- ・令和6年度も、3回の研修会と連携研修(2回)を行う予定です。連携研修では、大学教授や障害者の労働生活を支えている企業の責任者や障害当事者を講師にお招きして研修を実施する予定です。

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都知的障害特別支援学校就業促進研究協議会
代表者	所属	東京都立青鳥特別支援学校
	職 氏名	統括校長 諏訪 肇
	連絡先	03-3424-2525
事務局	所属	東京都立青鳥特別支援学校
	職 氏名	主任教諭 神立 佳明
	連絡先	03-3424-2525